

令和8年度 第2回 交野市図書館協議会

議題

(仮称) 青年の家図書館整備基本計画 骨子素案

令和8年9月29日火曜日15時～

@青年の家2階会議室

(仮称)

青年の家図書館整備基本計画

骨子素案



第1章

計画の背景と目的

1 計画策定の背景と目的

キーワード

単なる改修でない

「知の拠点」として
の整備

持続可能なまちづく
りへ繋ぐ

基本理念、施設機能、
空間構成、事業費



実現的な計画へ

■計画策定の背景

- 単なる既存図書室の改修にとどまらず、本市の「知の拠点」を再編し、市民の日常に新たな価値をもたらすとともに、将来の持続可能なまちづくりへと直結する実効性の高い基本計画の策定が求められています。

■計画の目的

- 本計画は、既存施設である「青年の家」1階部分を活用した「（仮称）青年の家図書館」の整備に向けて、基本理念や施設機能、空間構成、事業費等を総合的に整理し、実現性の高い基本計画を策定することを目的とします。

2 上位計画及び関連計画との整合

上位・関連計画を整理し、新図書館に求められる役割や位置づけを把握します。

- 第5次総合計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設等再配置計画
- 教育大綱
- 生涯の学び指針（2027年～）
- 学校教育ビジョン
- 図書館整備構想
- 図書館運営方針子ども読書活動推進計画

3 社会情勢の変化と図書館を取り巻く全国的な動向

近年の図書館整備では、資料・情報提供を基盤としながら、次のような方向性も重視されています。

- 「貸出の場」から、滞在し、学び、活動できる場へ
- 複合化から「機能融合」へ
- 誰も取り残さない利用環境の整備
- DX・ICTによる「省力化」と「サービスの質向上」の両立
- 建物単体ではなく、地域全体を図書館サービス網として捉える視点

キーワード

図書館の変容

本のある場所貸出



滞在・学び・
活動の場

デジタル化・
ICT化の併合による
サービス向上

4 先進事例の整理

既存公共施設の改修・複合化、滞在型サービス、DX・ICT、他機能との融合等の観点から、本事業との類似性が高い事例を対象に調査します。

- 泉大津市：SHEEPLA（シープラ） 泉大津市立図書館
- 寝屋川市：寝屋川市立こども図書館（こども図書館＋plus）
- 寝屋川市：寝屋川市立中央図書館
- 枚方市：枚方市立生涯学習交流センター・枚方市立市駅前図書館
- 葛城市：（仮称）當麻複合施設 niconowa

第2章

交野市立図書館の 現状と課題

1 交野市の地域特性と図書館の現状

■ 交野市の地域特性

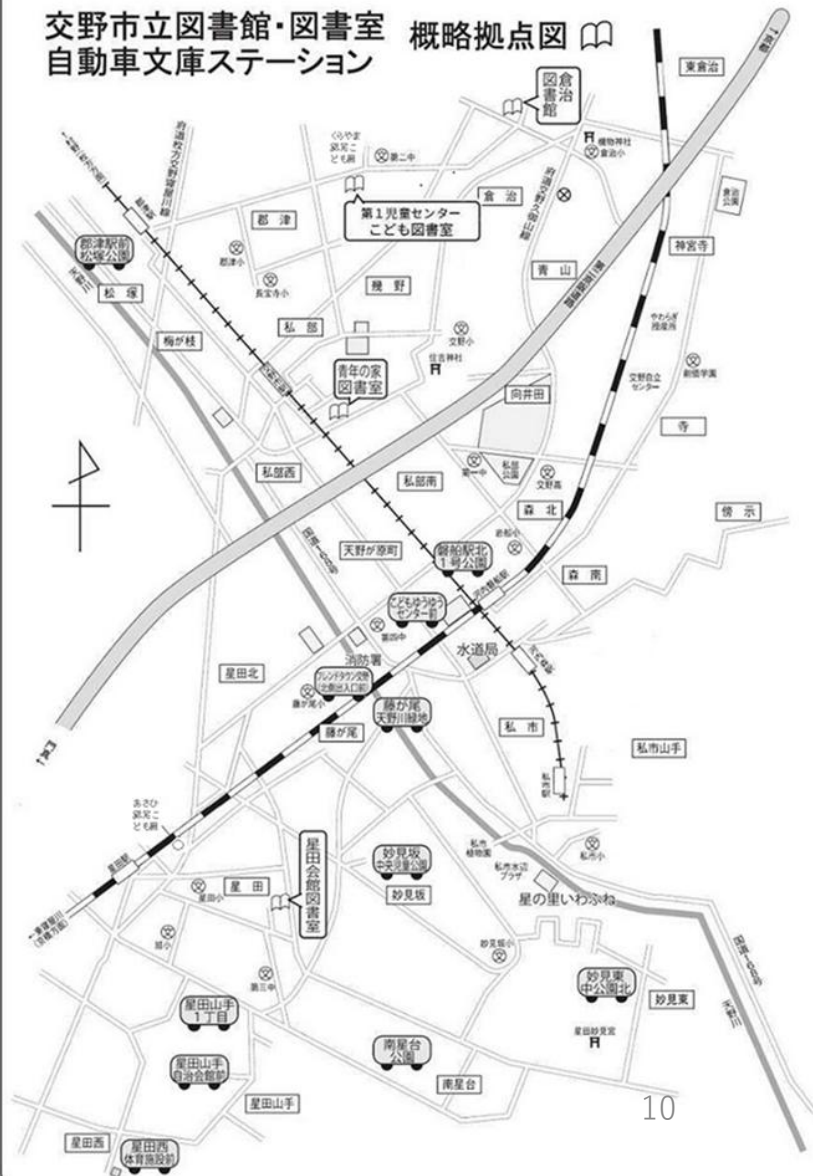
- 本市における新たな公共施設（新図書館）の整備方針を検討するにあたり、前提となる交野市の立地、人口、都市環境等の基礎的な地域特性を整理します。

■ 交野市の図書館の現状

- 交野市の図書館サービスは、倉治図書館、青年の家図書室、星田会館図書室、第1児童センターこども図書室の4施設に、自動車文庫、学校及びこども園への団体貸出、オンラインサービス等を組み合わせた「地域密着型・分散型」のサービス網を形成している点に大きな特徴があります。
- 図書館・室と自動車文庫による身近なサービス網
- 利用状況と、貸出を基盤とした多様な利用
- 学校・子ども・地域へのアウトリーチ
- 「利用者との心理的距離の近さ」という交野らしさ

- 図書館・室と自動車文庫による身近なサービス網
- 貸出を基盤とした多様な利用
- 学校・子ども園・地域へのアウトリーチサービス
- 「利用者との心理的距離の近さ」という交野らしさ

交野市立図書館・図書室 概略拠点図
自動車文庫ステーション



2 市民ニーズの把握と分析

- アンケート調査及びワークショップに基づく潜在ニーズを抽出します。
- 利用実態と世代別のニーズ（アンケート結果より）
- 「関係性」と「居心地」への期待（ワークショップ結果より）
- 新図書館整備への期待



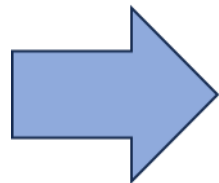
アンケート調査結果

◆一般向け

実施期間 令和8年7月27日から8月16日

対象および方法

- ・市内在住者 無作為抽出2,000件
- ・広報かたの8月号及びHP、SNS等でのQRによる回答受付、
- ・各図書館での紙媒体の設置



◆児童・学生

実施期間 令和8年7月14日から8月16日

対象および方法

市内公立小学校4・5・6年生
および中学校・高等学校学生
QRによる回答受付

◆協力結果

- ・市内無作為抽出 404件
(回収率20%超)
- ・アンケートQR 637件
- ・紙ベース 136件
- ・小学生 159件
- ・中学生・高校生 55件
- 合計 1,391件

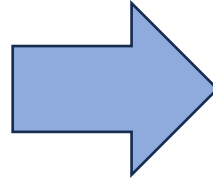
◇統計的な信頼性を確保する上で一定の要件を満たしている

◇図書館への興味関心が高いことがわかる

ワークショップからは

令和8年8月22日（土曜日）14時から16時@青年の家2階
子育て世代の声を聞くため保育付き

25名の参加
参加者平均年齢 約53歳



ワークショップでは、参加者を4つの班に分け、
「人」×「時間」カードを組み合わせるワーク

「誰が」「いつ」利用するのかという偶然の組み合わせから想像を広げることで、新しい青年の家で過ごす
「一人では思いつかないような素敵な情景」を各班で生み出した。

続いて、思い描いた「素敵な情景」を実際に実現するためにはどのような空間や運営の工夫が必要かについて、班ごとに話し合いを行った。

参加者は楽しみながら想像力を広げ、将来の青年の家の情景について活発な意見交換を行った。

◆ワークショップでの意見の整理

- ①くつろぎ・滞在の場
- ②誰もが利用しやすい環境
- ③子どもと子育て世代の居場所
- ④市民の活動発表・にぎわいの場
- ⑤行政・まちとの距離が近い窓口
- ⑥多様な学びの機会

市民アンケート & ワークショップ

新図書館に関する貴重な生の声を活かす

3 現図書館（図書室）における課題の整理

- 誰もが使いやすい空間への改善 — 職員が最も強く望む基礎条件
- 静けさとにぎわいを選べるゾーニング
- 広くなるからこそ必要となる「見守れる空間」と安全管理
- バックヤード・物流・職場環境をサービス品質の基盤として整える
- 施設拡大とサービス拡充に見合う人員・運営体制
- ICTは「人が人に向き合う時間を増やすため」に
- 「交野らしさ」を継承しながら、新しいサービスを育てる

キーワード

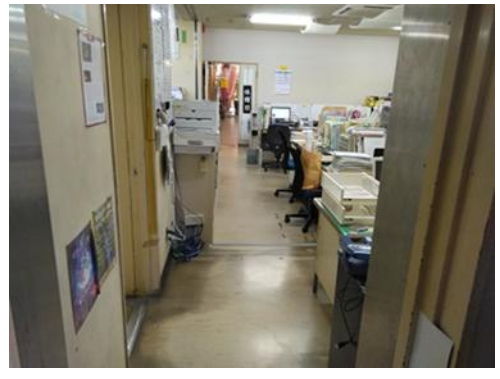
- 空間の改善
- 静動のゾーニング
- 見守る空間と安全管理
- 効率的な動線のバックヤードと職場環境の改善
- ICTの活用によるサービス向上

4 青年の家の現況と制約条件

青年の家の現況を把握し、法令、構造、空間、設備の各側面から、制約条件を整理します。

- 施設概要の整理
- 法的制約条件の整理
- 構造的制約と空間的課題の整理
- 設備インフラの適合性と改修課題の整理





第3章

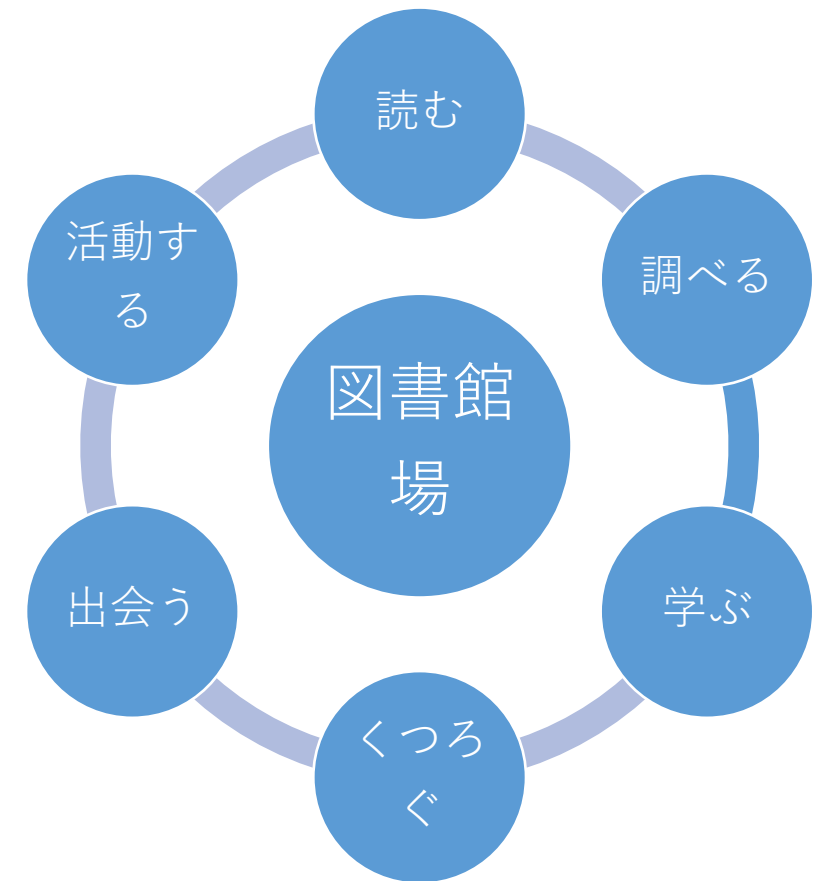
新図書館の 基本理念と基本方針

1 基本理念

本と人、知と活動をつなぎ、 交野の日常を豊かにする図書館（仮）

新図書館は、本・情報を確実に届ける
図書館本来の役割を土台としながら、
読む、調べる、学ぶ、くつろぐ、出会う、
活動するという多様な行為を受け止めます。

図書館が知識を一方向的に提供するだけでなく、
市民の関心や問いが資料・情報と結びつき、
学びが活動へ、活動が新たな問いや学びへ
循環する場をめざします。



図書館が可能性を広げる場であること

2 新図書館の基本方針

- ① 本・情報へのアクセスを、すべての**サービスの土台**にする
- ② 静かに過ごすことも、学び合い活動することも選べる**居場所**をつくる
- ③ 図書館と生涯学習等を「並べる」のではなく、知と活動が**循環**するよう**融合**する
- ④ 誰もが使いやすく、支援を必要とする人に届く図書館にする
- ⑤ ICTで便利にしながら、人と人との関係を大切にする
- ⑥ 市民と職員が、開館後も育て続けられる図書館にする

本・情報へのアクセス

居場所

(目的別ゾーニング)

活動

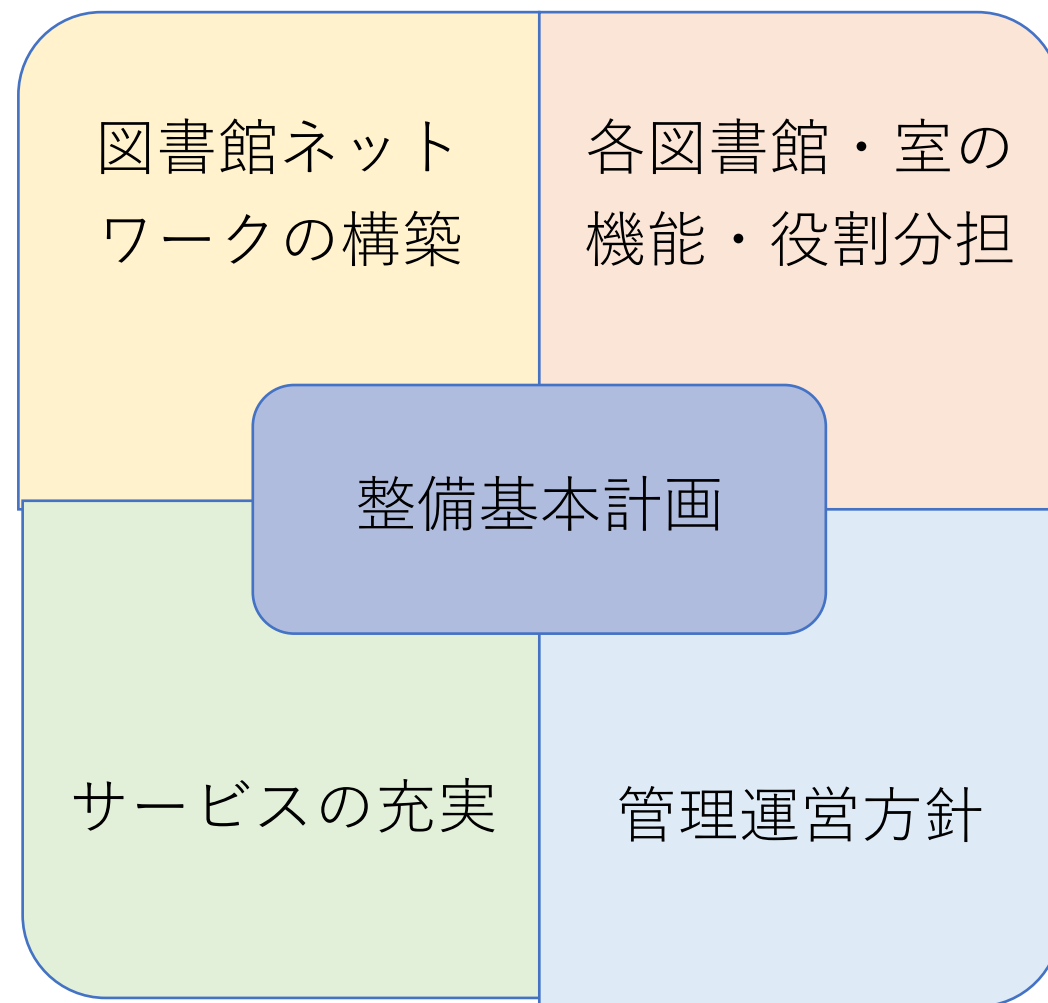
生涯学習
との融合

DX・ICT

共に
育てる

3 市内図書館ネットワークと機能分担

- ・市内全域をつなぐ**図書館ネットワークの構築**
- ・倉治図書館との**機能・役割分担**の明確化
- ・各図書室・自動車文庫の身近さを生かした**サービスの充実**
- ・将来の全館的な**管理運営方針**への展開



第4章

導入機能とサービス計画

1 生涯学習機能との融合

- ・ 講座・活動と図書館資料の**連携**
- ・ 学びの成果を次の市民へつなぐ
仕組みの構築
- ・ 地域課題を知り、考え、行動する
機会の創出
- ・ 連携による図書館運営の推進

キーワード

- ・ 学びの支援
- ・ 講座や市民活動
- ・ 資料展示・ブックリスト
- ・ 成果をつなぐ
- ・ 地域資料・行政情報
- ・ イベント
- ・ 地域への関心喚起
- ・ 企画・連携

図書館の「知・情報」 生涯学習の「学習する・創造する・活動する」

2 誰もが心地よく過ごせるサービス展開

誰もが自分に合った過ごし方を選べる図書館をめざし、
バリアフリー化、閲覧・自習席、児童スペース、
多様な利用者へのサービスを充実します。

キーワード

自分に合った過ごし方
環境 空間 資料・サービス

3 DX・ICT 環境の整備と拡張

- ・館内利用環境
- ・貸出・返却・資料管理
- ・オンラインサービス
- ・デジタル利用の選択肢の保障
- ・職員業務支援

検討



Wi-Fi

十分な電源
座席・諸室予約
等、学習・調
査・滞在を支え
る基盤



【検討】

ICタグ
自動貸出・返却
予約本受取
セルフレジ



Web予約

情報発信

【検討】

電子書籍
デジタルアー
カイブ

第5章

施設計画

1 施設規模と必要諸室の設定

将来的な人口動態や市民ニーズを見据え、
新図書館に求められる目標蔵書数や閲覧席数を設定します。
あわせて、開架スペース、児童スペース、学習・滞在スペース、
多目的スペースなど、各機能に必要な面積規模を算定し、
限られた空間を最大限に活用する施設計画を策定します。

ポイント

- ・ 目標蔵書数や閲覧席数の設定
- ・ 開架・児童・学習・滞在、多目的スペースなどの
各機能に必要な面積規模の算定
- ・ 限られた空間を最大限に活用する施設計画を策定



2 ゾーニングと動線計画

- ・ 既存のRC構造壁を活かした多様な滞在空間創出
- ・ 誰もが気兼ねなく利用できるユニバーサルな動線計画

ポイント

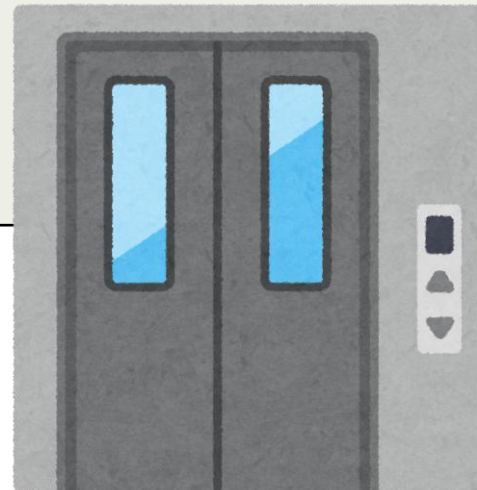
既存施設のRC（鉄筋コンクリート）構造壁といった物理的な制約を逆手に取り、静かに読書や学習に集中できるエリアと、親子で過ごしたり交流したりできるにぎわいのあるエリア分け

3 複合化を促す空間構成

図書館と生涯学習・市民活動がつながる、
開放的で回遊性の高い空間を整備します。

ポイント

- ・ 1階フロア全体を一体的に運用できる
オープンな空間構成
- ・ エレベーターや階段などの垂直動線を
わかりやすく整備し、
施設全体の回遊性を高める



4 屋外空間の活用

読書やイベントなど、屋内と屋外が連続し、
自然を感じられる空間として
青年の家の敷地全体の活用を検討します。

ポイント

図書館の機能拡張の場として積極的に活用



5 働きやすいバックヤード環境の構築

資料搬出入や物流、職員の休憩などを支える、
効率的で働きやすいバックヤードを整備します。

ポイント

- ・ サービスの基盤となるバックヤードの環境整備
- ・ 物流、資料の搬出入や装備・修理といった作業が行える独立したスペース
- ・ 休憩室の確保、働きやすい職場環境の構築



第6章

管理運営方針

新図書館の管理運営を、開館後もサービスを育て続ける仕組みとして捉え、人員体制や安全管理等を踏まえた施設・運営方針を一体的に整理します。

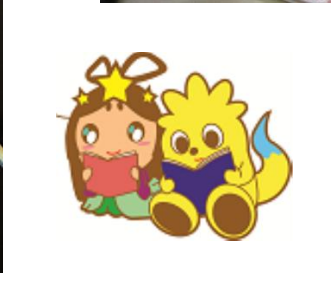
- ・ 運営の基本原則
- ・ 人員体制と役割分担
- ・ 複合施設としての運営分担
- ・ 安全・防犯・見守り
- ・ 開館準備と人材育成
- ・ 評価と改善
- ・ 工事期間・移転・開館準備期のサービス継続

第7章

事業実施に向けた計画

新図書館の実現に向け、事業費・スケジュール・今後の課題を整理し、設計・改修から開館後の運営までを見据えた事業化の道筋を示します。

- ・概算事業費の算定
- ・事業スケジュール（ロードマップ）
- ・事業化に向けた今後の課題



いい図書館をつくりましょう